

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	樋口 由貴子	職名	講師	学位	修士 (看護学) (産業医科大学 2017 年)
----	--------	----	----	----	--------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
小児看護学	子ども、ワクチン、感染症、発達障がい児、家族支援 学生健康支援

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児看護に関して、子どもの権利を尊重した看護の実際について考察する。また、入院中の患児とその家族の健康管理について考察する。</li> <li>・一保育園をモデルに感染症予防の具体的方策を検討実施し、その効果について検証する。</li> <li>・病気や障害をもつ子どもとその家族への支援について考察する。</li> <li>・学生健康支援の一つとして、本学保健福祉学部 1 年生を対象に健康管理カルテを作成しその有用性について検討を行う。</li> </ul>

担当授業科目
小児看護学概論 (前期:看護学科) 小児看護学方法論 (後期:看護学科) 小児看護学演習 (前期:看護学科) 小児看護学実習 (通年:看護学科) 看護総合実習・演習 (通年:看護学科) 緩和・がん看護学 (前期:看護学科) 看護学特論 (後期:看護学科) 助産診断・ケア学IV (前期:助産別科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 小児看護学概論 】</p> <p>正常な子どもの成長と発達を、教科書を基に説明した。リモート形式での講義であったため、学生が興味をもち授業に参加できるよう、また子どもとほとんど接する経験がない学生も理解できるように動画などを用い講義した。毎回「学び票」の提出を求め、学生の理解を確認した。学生の理解が難しいところは、次の講義時に再度説明を入れるなどの工夫を行った。また、途中、小テストを実施し、学生の理解度を確認しながら講義を進めた。小テストの得点率が高いが、定期テストでの得点率は低くなったことから、知識を定着することが課題となった。今後、反復学習など知識の定着に繋がる方法を考える。</p>
<p>授業科目名【 小児看護学方法論 】</p> <p>疾患や障がいをもつ子どもと家族の看護について講義した。講義では、子どもの権利や子どもの発達を踏まえ、小児看護として工夫をする事の必要性を実感し、学生一人一人が看護を考える事が出来るように発問しながら講義を行った。また、小児をとりまく社会や援助方法に興味を持つために、個人ワークとその発表を行った。コロナ禍で、実習での看護の現場を経験する機会の減少や、もともと子どもと触れあう機会が減少している学生も、小児医療の現場がイメージできるよう、DVD や画像、また、実習中の学生が実施したプレパレーションなどの事例の画像を用い説明した。</p> <p>障がいをもつ子どもと家族の看護、被虐待児への看護については、実際に現場で働く外部講師に講義を依頼した。現場の写真などを多く取り入れた講義を展開することで、実際の看護を学べる機会となっていた。</p>

<p>授業科目名【 小児看護学演習 】</p> <p>ペーパーペイシエントを用いた看護展開と実技演習を対面で実施した。事例検討では小児看護の現場で遭遇しやすい事例を作成し、看護展開をおこなった。実際の患児や家族がイメージできるように、DVD や写真を取り入れ状況を理解し、看護展開できるよう工夫した。アセスメントまでを個人ワークとし、計画立案はグループワークでディスカッションしながら理解を深めていけるようにした。個人ワークについては、個別にコメント入れ、学生へ返却し、それぞれの学生が理解できるように対応した。グループワークについては、発表を行い、その後、全体でディスカッションすることで、理解を深めるようにした。</p> <p>技術演習についても、短時間ではあるが、個人練習ができる環境を整えた。自己練習をする学生は少ないため、実習前に技術チェックを行い、反復して学習する機会をもち技術の習得に繋がるようにした。</p>
<p>授業科目名【 小児看護学実習 】</p> <p>今年度は、半日の臨地実習で実習を行い、残り半日を学内実習となった。短時間での臨地実習のため、学生が最大限に経験できるよう、臨床指導者と時間や方法を調整した。また、学生と共に患児のベッドサイドに行き、コミュニケーション方法や技術提供方法等の指導を行った。臨床側にも、それぞれの学生の課題を伝え、目標達成できるよう支援を求めた。半日の臨床での経験を基に、学内ではリフレクションを通し看護を見出していった。グループでリフレクションすることで、短時間の臨床実習時間であっても学びを深めることが出来ていた。また、看護師以外にも医師、保育士、療養支援士などと学生が関わり学べるよう調整した。</p>
<p>授業科目名【 看護総合実習・演習 】</p> <p>看護総合演習では、小児医療の現場で起こる倫理的問題を、事例をあげディスカッションすることで、子どもの人権の擁護や倫理的配慮について学びを深めた。その後、学生それぞれの探求したいテーマに沿い、文献を用い、現在の状況と課題を見出し、発表を行った。</p> <p>看護総合実習では、演習で学んだ知識・技術を小児外来と子育て支援施設実習を通し、看護の実際を学んだ。それぞれの学生が、実践を通し、看護実践の難しさ、やりがいを学び、自己の課題を見出すことができていた。</p> <p>最終的に、学生それぞれの探求したいテーマで論文を作成し、研究的思考ができるよう支援した。</p>
<p>授業科目名【 緩和・がん看護学 】</p> <p>小児の緩和・終末期・がん看護について1コマを担当した。DVD を用い小児の緩和・終末期医療の実際を紹介し、看護師として、どう向き合うかを思考できるように講義を展開した。「生きる」を大切にする看護の重要性について、教授した。</p>
<p>授業科目名【 看護学特論 】</p> <p>これから看護職として社会にでる4年生後期に開講された。1コマを小児医療のトピックとして、小児救急の現状や課題について、事例や統計を用い、看護師としてできること、大切にしていきたいことをそれぞれの学生が考える機会になるよう講義を展開した。</p> <p>理解状況としては、講義内容を小テスト形式で出題し、把握した。</p>
<p>授業科目名【 助産診断・ケア学Ⅳ 】</p> <p>助産別科前期「助産診断・ケア学Ⅳ(新生児・乳幼児)」では、乳幼児の発達について講義した。さらに、助産師として乳幼児と関わる中で遭遇しそうな事例を挙げ、事例検討する中で乳幼児の特徴を捉え児と家族への援助について思考できるよう工夫した。</p>

### 学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本看護協会会員		2002年4月(現在に至る)
日本小児看護学会会員		2009年1月(現在に至る)
日本小児保健協会会員		2009年4月(現在に至る)
日本環境感染症学会会員		2010年10月(現在に至る)
日本看護科学学会会員		2013年6月(現在に至る)

### 2022年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) なし				
(学術論文) なし (報告書) 1.女子大学生を対象にした健康 管理カルテの作成と有用性	共	2022.6	西南女学院大学 保健福祉学部附属保健福祉学研究所 2021 報告書	<p>① 女子学生の健康に対する意識を高め、学生の健康維持・増進に向けた学生支援の取り組みを実施するための方法として、「健康管理カルテ」の作成を行なった。今後、その有用性を調査し、改良を重ねることで、より学生にとって利用しやすい 「健康管理カルテ」を作成する。</p> <p>② 樋口由貴子, 目野郁子, 高崎智子, 水貝洵子, 山田恵, 大内田知英</p> <p>③ 西南女学院大学 保健福祉学部附属保健福祉学研究所 2021 報告書 (P6-7)</p>
(翻訳) なし				
(学会発表) 1. 重度の障害のある同胞と暮らすきょうだいの心理社会的体験－当事者の語りの分析から－	共	2022.6	第 69 回日本小児保健協会学術集会 (於 三重県総合文化センター)	<p>① 障害のある同胞と暮らすきょうだいの心理社会的体験を、きょうだい自身の語りを通じて明らかにすることを目的に研究を行った。その結果、きょうだいは同胞への捉え方が変容する心理社会的体験を理解し、それぞれの位相に合わせた支援を提供することが必要であると示唆された。</p> <p>② 樋口由貴子, 笹月桃子, 山本佳代子, 文屋典子, 野井未加</p> <p>③ 第69回日本小児保健協会学術集会講演集 心身障害児(者) 支援 (P128)</p>



--	--	--	--

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・九州・沖縄小児看護教育研究会 (幹事)</li> <li>・日本小児看護学会第 32 回学術集会 (実行委員として会場受付を担当)</li> <li>・日本家族看護学会第 29 回学術集会 (実行委員として会場運営を担当)</li> <li>・八女市同県乳幼児教育部会 (令和 4 年度第一回職員研修講師)</li> <li>・北九州市小児慢性特定疾病対策協議 会 (委員)</li> </ul>		2021 年 4 月～現在に至る  2022 年 7 月 (1 日)  2022 年 9 月 (1 日)  2022 年 6 月 (1 日)  2023 年 3 月 (1 日)

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健福祉学部 1 年生および助産別科 1 年生への感染症予防／予防接種手帳配布と抗体検査後の予防接種勧奨 (2011 年 6 月～現在に至る)</li> <li>・親子遊びの会「ほほえみ project」運営 (2016 年 4 月～現在に至る)</li> <li>・地域貢献活動企画名「一緒に遊ぼう」、団体名「ちゃれんじ」にスタッフとして参加 (2022 年 4 月～現在に 至る)</li> <li>・看護学科の学生募集委員 (2022 年 4 月～現在に至る)</li> <li>・キャンパスハラスメント相談委員 (2022 年 4 月～現在に至る)</li> <li>・看護学科の国家試験対策強化学習講義担当 (2 コマ)</li> </ul>